

## 第5章 一宮市6次産業化推進戦略

### 1 6次産業化についての現状と課題

一宮市は2016（平成28）年度に「一宮市6次産業化推進戦略」を策定し、愛知県6次産業化サポートセンターが主催する研修や「人・農地プラン」の話し合い等農林漁業者の集会での周知を行い、6次産業化の実施事業者を増やす取り組みを行いました。2023（令和5）年8月末現在、国の認定を受けた6次産業化認定事業件数は4件となっています。2017（平成29）年に1件認定されて以降新たな認定はありませんが、認定を取らずに独自に加工品を製造している農林漁業者もいるため、今後も制度についての周知や希望者に対するサポートが必要です。

都市近郊型農業を営む一宮市では、年間を通じ様々な農林水産物の栽培・収穫・出荷を行っています。高齢化による経営規模縮小や加工に回せる農林水産物が少ないこと、また小規模な農林漁業者が多く6次産業化に対する専門知識が不足しており、単独での6次産業化への取り組みが困難であることなどが、課題となっています。

### 2 取り組み方針

一宮市は、今後も研修や周知など6次産業化に取り組むための機会づくりを続けるとともに、生産部会や各種団体等が組織的に行う加工・直売、新しい販売方法の構築について支援します。将来の6次産業化を目指し、加工に活用する農林水産物を開発するための取り組みについても同様に支援します。

また、農林漁業者にとって専門外の知識である加工や販売等については、愛知県6次産業化サポートセンターと連絡を密にし、積極的な相談と助言を求めることとします。

さらに、一宮市では、ふるさと納税の返礼品として数々のお礼の品を取り揃えており、農業者の方の商品も取り扱っています。今後、6次産業化により開発された新商品についてもふるさと納税の返礼品として活用することで、販路の拡大につなげます。

### 3 成果目標

農林漁業者の6次産業化を推進するため、一宮市は6次産業化に関する情報を発信し、農林漁業者だけでなく、市民全体に対する周知も行います。これは、6次産業化が農林漁業者だけでなく、商工業者や小売業者、実際に商品を購入する消費者に対して、6次産業化を知ってもらうことにつながります。

また、農林漁業者が愛知県6次産業化サポートセンターを活用し、相談をしやすくなるよう、一宮市は担い手等に対するヒアリングや事前相談の機会を設けます。

最終的には、現在4件である国の認定を受けた6次産業化認定事業件数を5件以上に増やすことを成果目標とします。

### 4 重点的に活用する農林水産物とその方向性

多くの人が携わる農林水産物の活用は、地域農業全体の収入向上に繋がります。そのため、複数農林漁業者で組織されている各種団体等が栽培しているものを、重点的に活用する農林水産物とします。具体的には、愛知西農業協同組合の営農部会が栽培している地元のお米「あいちのかおり」や農林水産物の品種・品目ごとに組織される生産部会で栽培している野菜等がこれに該当します。

その他、「一宮市の特産品」となることを目標として試験的に栽培するもの、ブランド化を目指すものについても重点的に活用します。前例がない分リスクも通常より高く、付加価値を付けるために手間暇がかかることが想定される農林水産物です。例えば、新品種の農林水産物や若手農林漁業者が熱意を持って挑戦するもの、他と差別化が図れるよう栽培方法を工夫・改善した農林水産物等がこれに該当します。

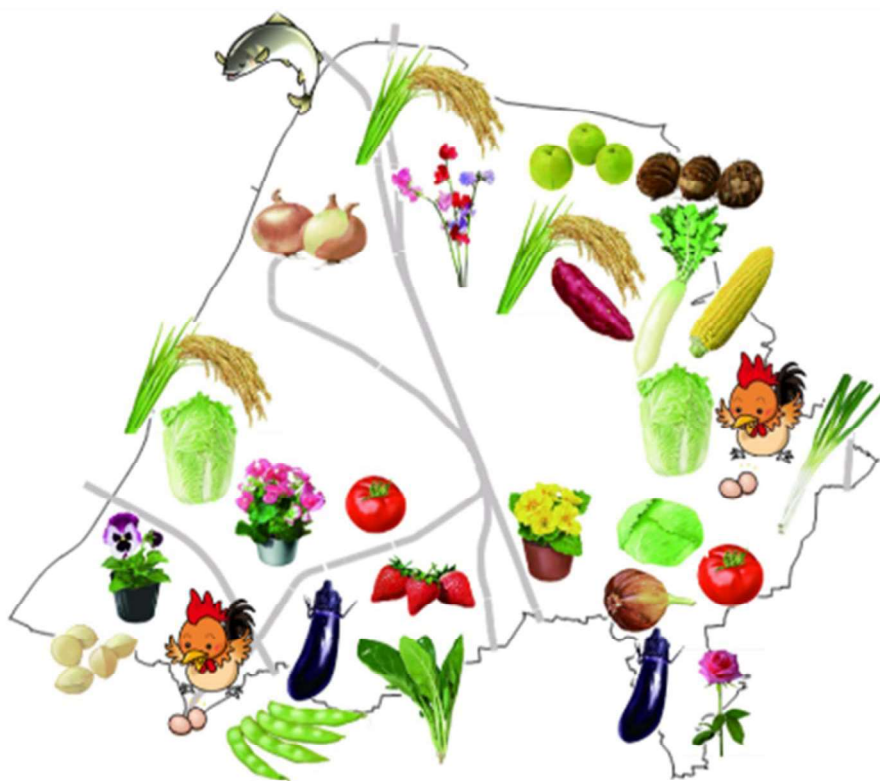
これらを始めとする地域の農林水産物を活用した加工食品の開発により、一宮市を代表する新商品が生まれるよう支援していきます。

## 5 実施事業者への支援と将来像

6次産業化の取り組みを検討できるよう、1次・2次・3次産業事業者の交流会や農林漁業者とその団体に対する6次産業化の説明会(新商品開発・販路開拓・人材育成等)への参加を促します。同時に、愛知県6次産業化サポートセンターの積極的な相談に結び付けます。

組織的に行う加工・直売、新しい販売方法の構築などへの支援については、新商品の開発や加工施設・直売所の整備、商工業者とのマッチングによる販路や加工事業の拡大等、国等の支援施策を活用します。

将来的には、地域の農林水産物を活用した6次産業化事業者を育成し、魅力があり持続的発展性のある農業経営ができることを目標とします。



【写真イラスト提供：愛知県農政部園芸農産課・農政課】